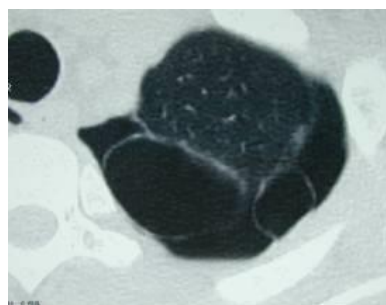


気胸センターについて

(気胸の病態および当センター設立の主旨)

気胸とは肺の一部が破れ、肺がパンクする（しぼむ）病気です。肺が破れてしまう原因により以下のような種類に大別されます。

1) **特発性気胸（原発性気胸）**：肺の表面にできた嚢胞（ブラやブレブと呼ばれる病変）が破れて生じるもの



2) **続発性気胸**：びまん性疾患や結核、肺膿瘍など通常の肺嚢胞以外の病気が原因で生じるもの



3) **外傷性気胸**：外傷や針治療などが原因で生じるもの

気胸の治療を行う上では、上記1)～3)の**病態別に綿密な治療計画に基づき、呼吸器の専門的な知識をもった医療スタッフによる対応が重要**と考えております。昨今増加している上記2)続発性気胸の多くは高齢者で気胸以外にも循環器系や糖尿病などの併存疾患を多く抱えている場合も少なくありません。当院では複数の診療科による協力のもとで治療を行うことが可能です。

いずれの病態においても迅速な対応が必要であり、地域医療機関からの受け入れを柔軟に行い、早急に治療を行なえる体制の確立を目的に当センターを設立する運びといたしました。

気胸の症状としては、突然の胸痛や呼吸困難（息切れ）、咳などに加え、胸部の違和感などがありますが、稀に無症状の場合もあります。肺がしぼむだけでなく肺から漏れ出す空気がどんどん増えると、心臓を圧迫し血圧低下（ショック状態）から生命の危険に陥ることもあります。激しい咳や運動時に生じることが多いと言われますが、安静時に生じることもあります。ストレスなども要因とされる上記1)

の特発性気胸は10代から20代の若い世代に起こりやすい病気ですが、広島中央医療圏は、大学生など若い世代が多く在住していることもあり、気胸の患者が大変多い地区です。

(診療体制について)

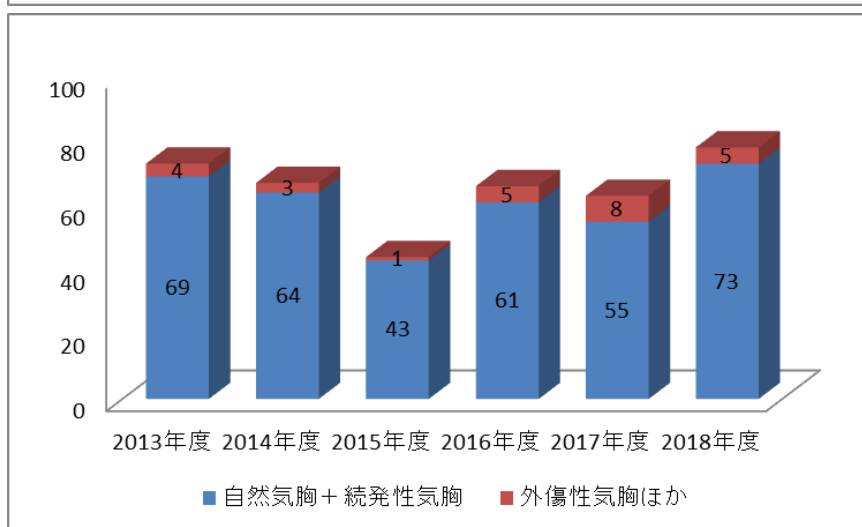
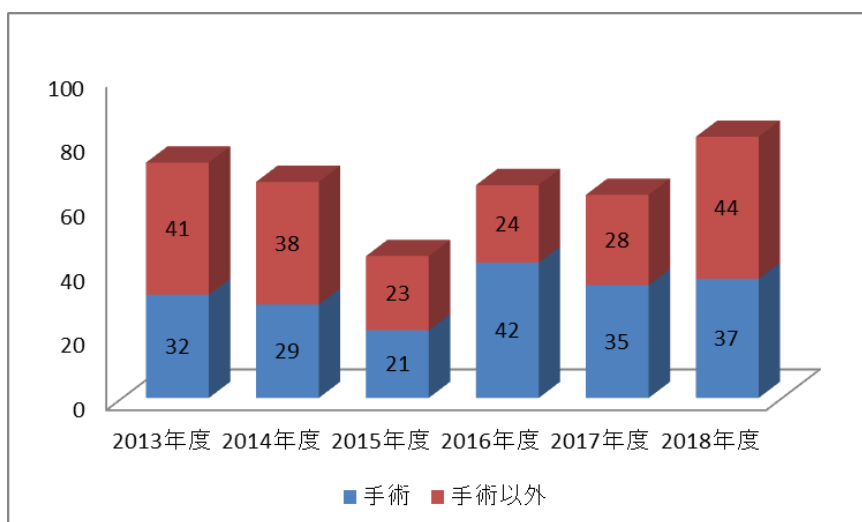
当院は豊富な診療経験を有する呼吸器外科専門医ならびに呼吸器内科専門医がいずれも複数名在籍し、最新の医療機器も完備しており、呼吸器グループチームとして患者さん一人一人に最善の治療を提供すべく本気胸センターを運営してまいります。

気胸患者さんのご紹介ならびに患者さん自身からのご相談につきましては、電話でご連絡いただければ担当スタッフが早急に対応いたします。気胸は時に急な変化も来しますので、軽症と思われる場合でもご連絡ください。

(当センターにおける気胸治療の実績)

気胸で入院された患者さん全体の延べ人数と手術数の推移を以下に示します。その他に外来で経過観察のみを行った患者さんが多数おられます。

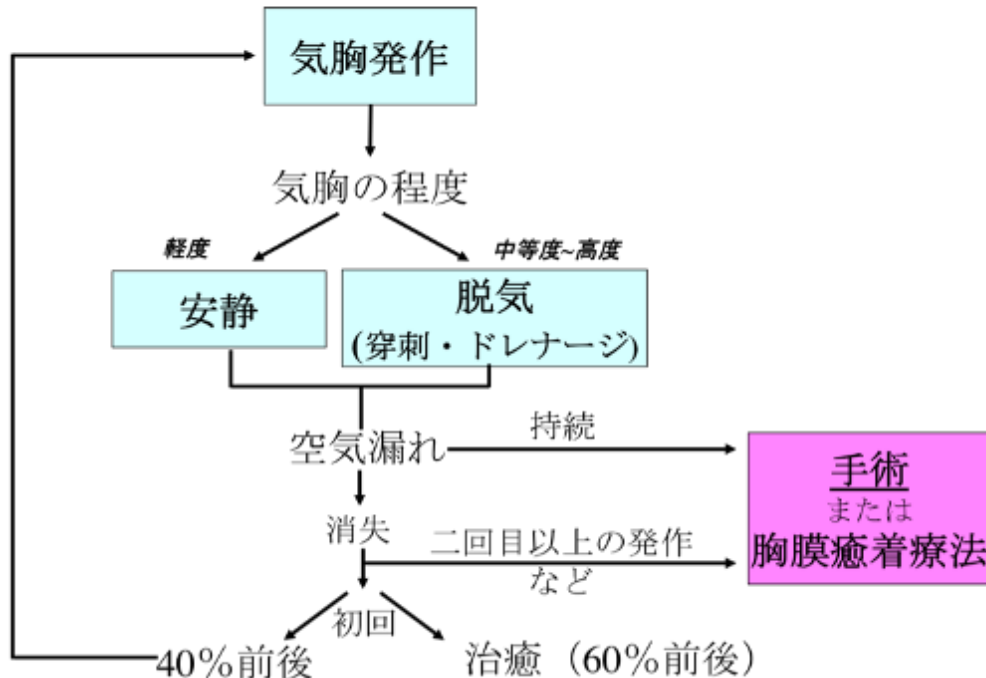
広島県内においては有数の症例数であり、国内のみならず国際学会などでもその治療成績について報告し高い評価を得ています。



(当センターにおける治療方針)

以下が一般的な治療の流れとなります。

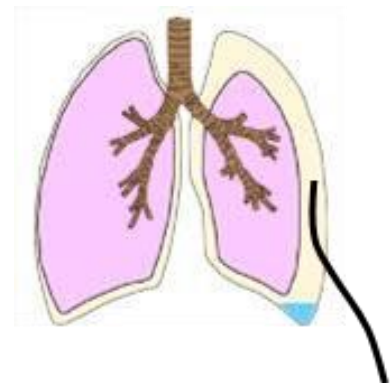
自然気胸：治療方針



東広島医療センター 呼吸器外科

胸腔ドレナージについて

肺の外側と胸壁の内側にある胸腔という空間に肺から漏れた空気がたまるため、これを排出すべくチューブを挿入する胸腔ドレナージが通常最初に行われる治療です。局所麻酔で可能な処置であり、多くの場合は、この方法で通常一旦は気胸の症状が改善し軽快しますが、手術が必要となる場合もあります。

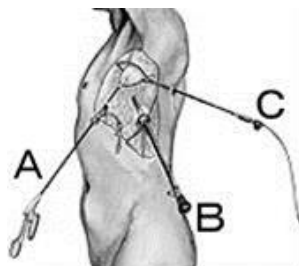


緊急を含めて手術療法が選択される病態として

- ① 持続する空気漏れがある場合
- ② 再発の場合
- ③ ドレナージを行っても肺の再膨張不良な場合
- ④ 両側同時気胸
- ⑤ 血気胸
- ⑥ 緊張性気胸
- ⑦ その他（希望時など）

などが、挙げられます。

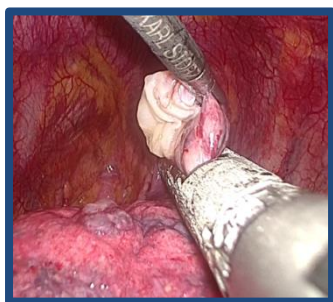
当センターで行っている手術は、全身麻酔下に通常 3 か所（各 1.5 cm程）の傷による内視鏡手術にておこなっています。



当院に完備されている最新型内視鏡手術システムは、フルハイビジョンで撮影された画像をコンピューターでアップコンバートし、医療用に開発された特殊な 4K モニターに映し出すことが可能であり、**極めて高精細な映像のもとで手術を行うことが可能**です。



気胸の原因である嚢胞病変を切除すること（左下図）に加えて、再発予防の補強シートを貼付する方法（右下図）をとっています。病変部の切除においては当院独自の工夫を凝らすことで再発率を下げる取り組みも行っています。



また通常のドレナージに加えて行う内科的治療として、気管支鏡下で特殊素材(EWS : Endobronchial Watanabe Spigot)を用いて気管支を充填する方法を行うこともあります。

